

ISO14001 認証取得へ向けて

—環境内部監査委員の講習を受けて—

野呂 明美 (生物資源学部 共生環境学科)

はじめに 三重大学は 2007 年 9 月 ISO14001 認証取得を目指して準備を始めている。ISO14001 認証を取得するには、大学で働く教職員および出入の業者など大学のために働く人も含めて全員が ISO14001 の要求事項を満たさなくてはならない。ISO14001 認証取得準備の一環として開催された「環境内部監査委員」養成のための講習を受け、少しでも多くの教職員に ISO14001 認証取得について啓蒙する必要性を感じこの場を借りて発表することにした。

ISO14001 とは ISO は国際標準化機構(International Organization for Standardization) のことで工業標準の策定を目的とする国際機関である。各国の標準化機関の連合体で 1947 年に設立され、本部はスイスのジュネーブにあり、現在では 156 カ国が参加している。身近な例では写真フィルムの感度の規格として ISO が使われているのはよく知られている。略称が英文名称の頭文字語「IOS」ではなく「ISO」になっているのは、ギリシャ語で「平等」を意味する「isos」という言葉が起源になっているためである。ISO14001 は数ある ISO 規格の中でも「環境マネジメントシステム」に関する規格である。

ISO14001 認証取得する意義

企業が組織として認証を取得した理由 日本適合性認定協会 (JAB) が 2004 年 1 1 月に調査した結果によると

1. 企業イメージの向上
2. 環境保全活動の社会的推進
3. 地球環境への社会的責任

となっている。中でも最も重視した取得理由として「取引先からの要請」と言うのが上がっているが、ISO14001 では出入りの業者に対しても ISO14001 の要求事項の中のいくつかの項目を満たすことを求めている。従って ISO14001 認証を受けようとする会社は取引先に対しても ISO14001 を理解していることを求めるためであると考えられる。

大学が ISO14001 認証取得をする意義

下記の効果が考えられるが、環境教育を行った学生を社会に送り出すというのが大学独特の最も重要な社会的役割であり使命でもある。

1. 地球温暖化防止など環境の悪化を防ぐことができる
2. 大学の社会責任 (USR) が明確になる

3. 環境教育および研究を「プラスの環境側面」と位置付け、環境教育を行った学生を社会に送り出すことができる
4. 内部監査を行うことにより他の部署との情報交換が出来、他の部署の良いところを取り入れ体質改善が出来る
5. 組織活動を透明化し見直すことにより委員会などの組織の数を減らすことが出来る

ISO14001の要求事項について

図1に「環境マネジメントシステム要求事項」の目次を示す。ISO14001 認証を取得するには要求事項に書かれていることを全て満たさなければならない。図中、左上に JIS Q 14001:2004 とあるのは、ISO14001 は英語で書かれているがそれを日本語に翻訳し、技術的内容および規格票の様式を変更することなく作成し日本工業規格とした物なので JIS と記載されている。2004 というのは 2004 年改訂版という意味である。

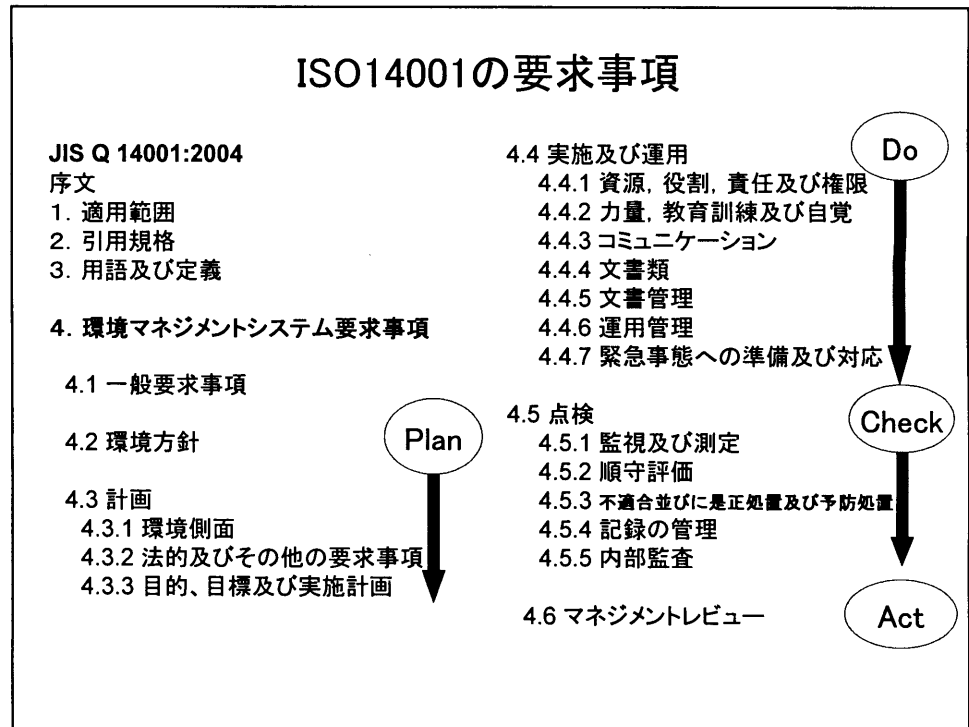


図1. ISO14001の要求事項の目次

要求事項はPDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルに沿って書かれている。PDCAサイクルを回すというとなしそうな印象を受けるが、私たちもふだん日常生活の中でPDCAサイクルを使っている。たとえば旅行に行く時、まず電車の時間を調べたり宿を調べたりして計画を立てる。それを実行し、その結果を出し、さらに次回に行く機会があればこうした方が良いとか見直しをして次回はより効率的に回れるよう色々工夫を加えて改善する。PDCAサイクルとはこの様に行動することである。ISO14001ではこのPDCAサイクルを繰り返し目的・目標に近づくよう目指す。これをスパイラルアップと呼ぶ。

1. 適用範囲 図2に環境マネジメントシステム組織図を示す。ISO14001の適用範囲は青色の波線で示した中の部分、つまり付属病院を除く上浜キャンパス全域になる。学生は利害関係者という位置づけになり適用範囲から除かれる。環境マネジメントシ

◆環境マネジメントシステム組織図

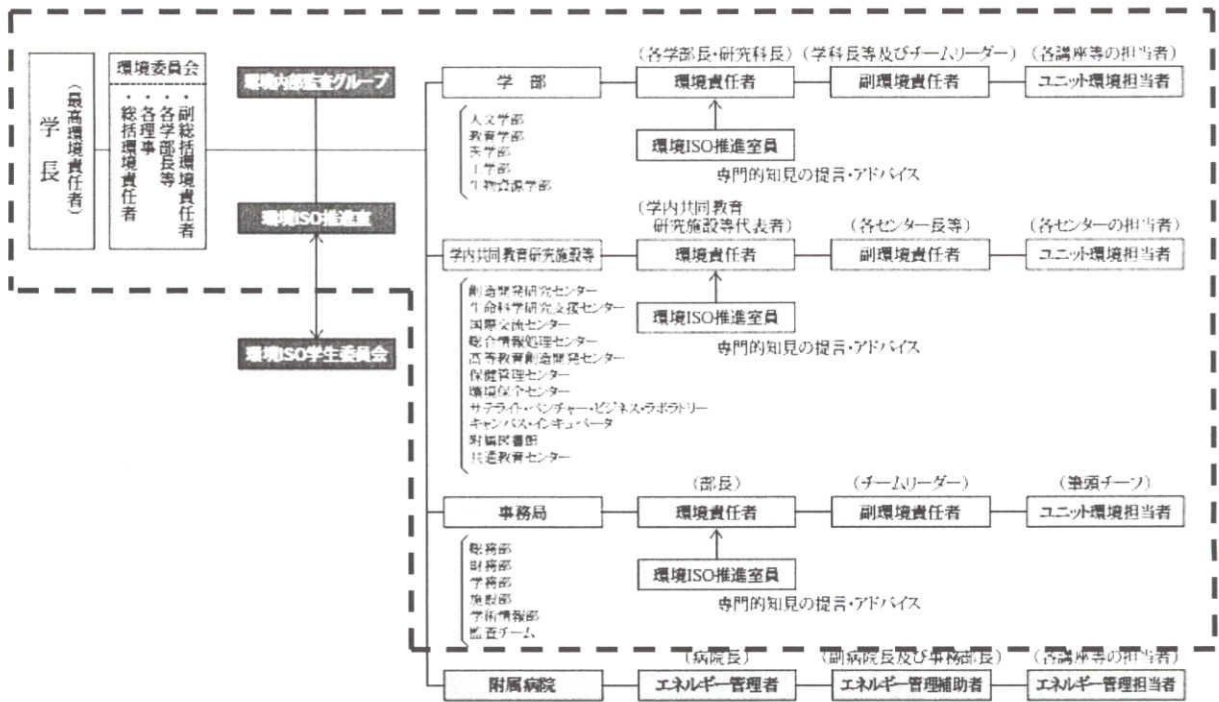


図 2. 環境マネジメントシステム組織図

システムのトップマネジメントは学長，その下に各理事，各学部長などにより構成される「環境委員会」が置かれる。

4.2 環境方針 PLANの部分にあたる「環境方針」はトップマネジメントである学長が定めなくてはならない。また，要求事項の中で「環境方針」は組織で働くまたは組織のために働く全ての人，つまり出入りの業者に至るまで全ての人に周知されなくてはならないなどと定められている。「国立大学法人三重大学環境方針」は 2006 年 2 月 21 日に kick off 大会が開催され学長より宣言された。「国立大学法人三重大学環境方針」は大学のホームページから入手できる。すでに教職員に対し配布されている「環境報告書 2006」の 7 頁にも掲載されている。認証を受ける審査の際に通りがかりの職員に審査員が「環境方針を知っていますか？」と聞き取り調査をしたと仮定する。聞かれた人の返事が「YES」でないと不適合になってしまい認証を取得することが難しくなる。

4.3.3 目的, 目標及び実施計画 前述の通り ISO14001 の要求事項は P D C A (Plan Do Check Action) の順に記載されており，P D C A サイクルを繰り返しスパイラルアップすることにより環境目的を達成しようというものである。環境目的を達成するために，その課程において毎年「環境目標」を定め P D C A を実施し，次年度またステップアップした「環境目標」を定め P D C A を繰り返す。この手順を毎年行い，「環境目的」に年々近づけていくという方法がとられる。実施にあたっては大学の全構成員・業者に至るまで全員一致して「環境目標」へ向けて実施するための力量，自覚を持たなくてはならない。また，そのための教育訓練も欠かすことが出来ない。

4.5.5 環境内部監査 専門家による審査を受ける前に、内部監査を行い、審査に合格しやすいよう事前に問題点を発見し、審査までに改善すべき点を改善する。そのための問題点の発見が当面の環境内部監査委員の重要な役割である。内部監査を行う「環境内部監査委員」を養成するための講習が9月に実施された。この講習で養成された「環境内部監査委員」は54名、これから数名1チームに分かれ環境内部監査を実施する。先日、三重県教育委員会文化財保護室の環境内部監査にオブザーバー参加する機会を得た。三重県庁では職員約5,000人中700名程が「環境内部監査委員」の資格を取得しているそうである。本学においても今後「環境内部監査委員」を増やしていく必要がある。また、三重県では内部環境監査を通して部署間のコミュニケーションが行われていた。内部環境監査をすることにより他の部署の優れた点が見えてくるらしく、知事臨席のもと年に1回開催される表彰発表に内部環境監査員から「これを出してはどうか」と内部環境監査の時に働きかけたりすることがあるとのことである。職員の評価では、内部環境監査を行っている人に対してはその人の評価者(上司)が「誉める」のだそうだ。そうすることによって内部監査員のモチベーションが上がり、職場の士気がプラス方向へ向い活性化につながるとのことであった。

4.6 マネジメントレビュー マネジメントレビューとは学長による環境マネジメントシステムの見直しのことである。要求事項では次のように定めている。「トップマネジメントは、組織の環境マネジメントシステムが、引き続き適切で、妥当で、かつ有効であることを確実にするために、あらかじめ定められた間隔で環境マネジメントシステムをレビューすること。レビューは、環境方針、並びに環境目的及び目標を含む環境マネジメントシステムの改善の機会及び変更の必要性の評価を含むこと。マネジメントレビューの記録は、保持されること。」ISOは民間企業から始まったものである。システムは自主的に運用され、有言実行、継続的改善が続けられる。組織の中でトップダウン的に実行されると言う特色を持つ。

認証取得のカギと将来の展望

2007年9月認証取得へ向けて、環境ISO推進室では「三重大学上浜キャンパス環境マネジメントマニュアル」の作成が急ピッチで進められている。その後作成されたマニュアルを使い環境内部監査が実施される。また、各部門においてはその部門における環境目的、環境目標を設定し、それを達成するための実施計画の策定を行わなければならない。三重大学がISO14001認証取得に成功するには、ISO14001を取得する意義を皆が理解し、それに賛同し、一致協力する体制が取れるかどうかにかかっている。幸い本学では環境問題に関心を持つ学生が多く存在し、学生が積極的にISO14001認証取得に協力している。彼らの環境保全活動に対する情熱を大切に育成し、彼らが将来社会人になった時、環境マネジメントシステムを実行する上で得た手法が役立つことであろう。環境マインドを持った人を育て送り出すことは大学の社会責任である。